

# 自立支援部だより

～みんなで考えよう 特別支援教育の専門性～

2026年3月16日第2号  
兵庫県立むこがわ特別支援学校

## 多様化講師からの助言

今年度は丸田作業療法士、圓越言語聴覚士、兵庫県立尼崎リハビリテーションセンターの理学療法士、作業療法士の方々に来ていただき、様々な助言をいただきました。その中から、言語聴覚士からの言語不明瞭な生徒への助言を紹介いたします（昨年度の助言も含めています）。アセスメント等にご活用ください。

### 発声できる身体づくり

#### 顔を上に向ける

- ・下を向いたままでは声は出ない。
- ・紙の筒（ラップの芯等）を教師と子どもが持ち、教師の筒を、子どもに叩かせる。初めは子どもが叩きやすい場所に筒を出す、徐々に上げていき、子どもが手を上に伸ばさないと叩けない位置に誘導し、上体や顔を自然に上げさせる。

#### 声を出しやすくする

- ・胸部を広げる運動をする。（上記の取り組み）
- ・寝ころんだ状態から、ロープなどを持って起き上がる。
- ・ぎっこんぱったんなどで、引っ張り合うことで胸周りの筋肉を鍛える。
- ・腕をまっすぐにあげる動作で首回りや胸回り、わきの下を伸ばす。（フリスビーを両手で上げて持つなど）
- ・高這い姿勢での雑巾がけ（支援学校は小学部で取り組んでいるところが多く、障害が重い子どもでも発声がしっかりしていることが多い原因の一つかも）

### 噛む

#### 唇をとじる

- ・唇が閉じられないと、噛むことは難しい。
- ・上唇を閉じるために、空のコップをくわえる練習をする。

#### ストローを使って

- ・ストロー（タピオカストロー、歯ブラシの柄など）を縦や横に噛む。
- ・縦横に奥歯で噛む。手を使ってかまわないので、右から左、左から右へと噛みながら移動させる。
- ・ストローを口の力で動かしながら噛む。



## 他の物を使って

- ・紙コップの口の一部や口全体を噛ませる。
- ・ホームセンターに売っている水槽から空気を出す用のチューブを割りばしの間に入れて、くちやくちや噛ませる。
- ・(食べ物を使う場合) かつぱえびせんのように溶けるものを前歯で噛ませる。

## 舌をしっかり動かす

### スプーンを使って

- ・舌を出してスプーンをなめる。
- ・スプーンを口の中の左右に動かしながら、最後は中央から抜き、唇を2.3回閉じ、チャッチャと音を立てる。(よだれ予防)



### ストローを使って

- ・ストローが入っている紙を少し破り、吹いてとばす。
- ・ストローを口の左端に入れ、手を使わずに舌でストローを左から右へ移動させる。できたらまた左へ移動させる。

## 発語への促し

### 発語につなげる

- ・知っている単語を手を叩くことで表出させる。(「ねこ」なら2回「はしる」なら3回)
- ・リズムに乗りながら、紙コップに「あー」と発声させる。コップの響きを感じさせる。
- ・本人が発声しやすい音で練習する。

### 言葉を引き出す

- ・イラストの一部を見せて言わせる。言えなければ一緒に言い、はじめは一部分だけでも良いので(「ねこ」の「こ」だけでもよい) 発声経験を積ませる。
- ・動作をして言わせる。(「はしる」の「る」だけでもよい)
- ・文に移行する。(「バスにのります」) など
- ・名詞→動詞→形容詞 で語彙を増やしていく。

一昨年度から復活した多様化事業で、様々な専門家の助言を受けることができます。来年度はこばと聴覚部門が加わるため、学校として依頼する専門家のラインナップは大きく変化するかもしれません。来年度も支援部からお知らせすることになると思いますので、どうぞご活用ください。